

[成果情報名]ブドウ「サンシャインレッド」の短梢剪定栽培における特性

[要約] ブドウ「サンシャインレッド」の短梢剪定栽培は収量を確保するため、2芽剪定を基本とする。長梢剪定栽培と比べると果房上部の軸横幅がやや広がるが、糖度や着色には差がなく、十分な果実品質が確保される。

[担当]山梨県果樹試験場・育種部・生食ブドウ育種科・小林正幸

[分類]技術・普及

[課題の要請元]

JA フルーツ山梨、部門別農業代表者会議、販売・輸出支援課

[背景・ねらい]

ブドウ「サンシャインレッド」（品種登録名：甲斐ベリー7）については、令和4年度成果情報において、ジベレリン処理や着色管理方法について報告した。本研究では短梢剪定栽培における発芽率や果実品質について特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「サンシャインレッド」で1芽剪定を行うと、基底芽の発芽率が低く花穂数が少ない。2芽剪定では基底芽の発芽率は低い、第1芽および第2芽の発芽率は高く、1芽座あたり1個以上の花穂を確保できる（表1、図）。
2. 1芽剪定では目標果房数（2,500房/10a）に対して、花穂数が足りない。2芽剪定では十分な花穂数を確保できる（表2）。
3. 短梢剪定栽培では果房上部の軸横幅がやや広がるが、糖度や着色は長梢剪定栽培と差はなく、果粒重は大きくなり、十分な果実品質を確保できる（表3）。
4. 短梢剪定栽培では芽座の長大化を考慮すると1芽剪定が望ましいが、「サンシャインレッド」の特性から収量を確保するため、2芽剪定を基本とする。

[成果の活用上の留意点]

1. 本成果は果樹試験場（山梨市江曾原：標高440m、褐色森林土）におけるH型短梢剪定栽培（露地栽培）の特性であり、目標収量は10aあたり1,500kg、最終着房数は2,500房、新梢数は4,500～4,800本とした。
2. 枝が細く充実不良の芽座は、冬季の低温や乾燥により枯死する場合があるので、充実した結果母枝を芽座にする（データ省略）。
3. 長梢剪定栽培と比べて棚面が暗くなりやすい傾向があるため、副梢をせん除するなど新梢管理を徹底する。
4. 本成果は短梢剪定栽培の基本的な特性であり、安定生産に向けた栽培技術については、今後も検討が必要である。

[期待される効果]

「サンシャインレッド」の短梢剪定栽培における特性が明らかになり、新規作付け時における整枝剪定方法の選択時の参考資料となる。

[具体的データ]

表 1 短梢剪定樹における発芽率および花穂着生数(2021～2024)^z

品種	剪定方法 ^y	基底芽		第1芽		第2芽		1芽座あたりの花穂着生数
		発芽率(%)	花穂着生数	発芽率(%)	花穂着生数	発芽率(%)	花穂着生数	
サンシャインレッド ^z	1芽	62	0.2	100	0.5	—	—	0.6
	2芽	5	0.0	95	0.6	97	0.9	1.5
シャインマスカット	1芽	83	1.0	100	1.3	—	—	2.3
	2芽	20	0.3	95	1.3	100	1.5	3.1

z) サンシャインレッド^z：101-14台、6～9年生、1芽剪定22芽座、2芽剪定48芽座調査

シャインマスカット：101-14台、9～12年生、1芽剪定30芽座、2芽剪定20芽座調査

y) 1芽剪定：第1芽を残して第2芽を犠牲芽剪定、2芽剪定：第2芽を残して第3芽を犠牲芽剪定

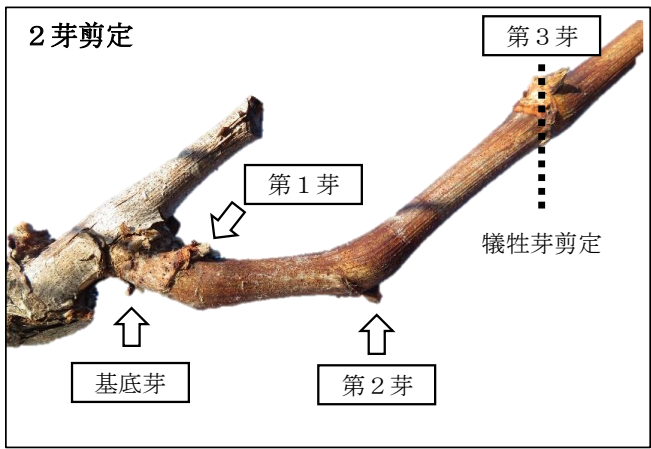


図 短梢剪定樹における芽の位置と切り詰め程度

表 2 剪定の違いが新梢数および花穂着生数に及ぼす影響(2022～2024)^z

剪定方法	新梢数 ^y (本/10a)	花穂着生数(個/10a)
1芽	4,503	1,668
2芽	5,560	4,170

z) 101-14台、7～9年生

y) 芽かき前

表 3 「サンシャインレッド」の長梢剪定樹および短梢剪定樹における果実品質(2022～2024)^z

剪定方法	果房重(g)	着粒数(粒)	果粒重(g)	糖度(°Brix)	果皮色 ^y (c. c.)	軸横幅(cm)	収穫日 ^x (月/日)	収量(kg/10a)
短梢 2芽剪定	567	38.7	14.9	19.0	3.5	5.4	8/24	1,694
長梢	538	39.8	13.8	18.8	3.3	5.1	8/19	1,426

z) 長梢(101-14台、8～10年生)、短梢(101-14台、7～9年生)、GA処理：GA25+F5→GA25

調査日：2022年(長梢8/26 30果房、短梢9/9 7果房)、2023年(長梢8/30 30果房、短梢9/6 10果房)

2024年(長梢9/2 21果房 短梢9/3 14果房)

y) 赤系ブドウ専用カラーチャート(山梨県総合理工学研究機構)：0(緑)～6(濃赤)

x) 糖度が18°Brixに達した日

[その他]

研究課題名：着色系オリジナル品種の育成、県オリジナルブドウ「サンシャインレッド」の安定生産技術の確立

予算区分：県単、県単(成長戦略)

研究期間：2021～2024年度

研究担当者：小林正幸、塩谷諭史、上野俊人、太田佳宏、手塚誉裕、向山佳代